

令和4年度 橋梁点検箇所一覧

番号	橋梁番号	橋梁名	路線番号	町道名(所在地)	判定区分	橋長	幅員(全幅員)	架設年度	備考
1	01	てらはし平良橋	206	田中四塚線(大崎町井俣)	Ⅱ	37.8 m	8.8 m(9.8 m)	1987年	前回点検時に見られる主桁のひびわれに進展は見られないが、PC桁に複数ひびわれが見られることから、予防保全の観点より、ひびわれ補修等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。
2	07	まてがやまはし档ヶ山橋	111	井俣茶ノ木線(大崎町仮宿)	Ⅰ	30.5 m	7.0 m(8.2 m)	2000年	前回点検より横桁に見られるひびわれに進展も見られず、他主部材に措置を講じるべき損傷は見られないことから、判定区分Ⅰと評価した。
3	08	ふっきりばし吹切橋	350	城内宮園線(大崎町仮宿)	Ⅱ	42.7 m	5.0 m(6.2 m)	1985年	主桁の張出床版部にPC横締め金具の腐食が見られ前回点検時より若干の進展が見られる。今後も進展する恐れがあることから、予防保全の観点より断面修復工等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。
4	26	かにくいばし力二喰橋	201	中尾鷲塚線(大崎町永吉)	Ⅰ	8.7 m	3.6 m(4.1 m)	1985年	令和元年度に補修工事した橋梁である。補修箇所でない新たな損傷が見られるが、いずれも小規模で、構造に支障を与えないことから、判定区分Ⅰと評価した。
5	31	かくどうばし角堂橋	213	角堂篠段線(大崎町野方)	Ⅰ	3.7 m	6.0 m(6.4 m)	1975年	前回点検から損傷に進展は見られず、新たな損傷もないことから、判定区分Ⅰと評価した。なお、路面端部に見られる植生及び土砂詰まりは除去することが望ましい。
6	37	はまむたばし浜牟田橋	355	中尾山村線(大崎町横瀬)	Ⅰ	4.8 m	5.0 m(6.0 m)	1988年	令和2年度に補修工事したボックスカルバートであるが、新たなひびわれが見られる。いずれも小規模で、構造に支障を与えないことから、判定区分Ⅰと評価した。なお、水切り材の欠損が見られたため、維持管理により修復することが望ましい。
7	40	みやぞのばし宮園橋	373	宮園崎園線(大崎町永吉)	Ⅱ	4.5 m	8.0 m(8.7 m)	1975年	令和元年度に補修工事した橋梁である。補修箇所に錆汁の混入した遊離石灰が見られ、内部鉄筋の腐食が疑われることから、予防保全の観点より、断面修復工等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。
8	41	だいにしんかわばし第二新川橋	374	牧谷迫線(大崎町永吉)	Ⅱ	4.3 m	7.0 m(7.4 m)	1975年	上流側及び下流側を床版で拡幅した橋梁である。前回点検より拡幅部に見られていたうきが鉄筋露出に進展し、水掛かり部であるため、さらに進展する恐れがあることから、予防保全の観点より、断面修復等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。
9	42	たばたばし田畑橋	378	新川档ヶ山線(大崎町永吉)	Ⅱ	8.4 m	5.2 m(5.6 m)	1975年	前回点検より橋台拡幅部に35mmの隙間が生じており、今後流水や吸出しにより進展する恐れがあるため、予防保全の観点より、間詰コンクリート工等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。
10	48	うめがわたせばし梅ヶ渡橋	435	水之谷馬場下線(大崎町野方)	Ⅰ	14.5 m	5.0 m(5.8 m)	2007年	前回点検時より耐候性鋼材に緻密な保護錆が生成されており、他主部材にも措置を講ずべき損傷は見られないことより、判定区分Ⅰと評価した。
11	57	だいにうとぐちばし第二宇都口橋	467	西平良宇都口線(大崎町菱田)	Ⅱ	5.4 m	4.0 m(4.5 m)	2017年	RCのボックスカルバートに架け替えられた橋梁である。頂版に幅0.1~0.5mmのひびわれが多数見られ、施工初期に入ったものと推定される。湿気が高い環境であるため、今後ひびわれの進展の恐れがあることから、予防保全の観点より、ひびわれ補修工等の措置を講じることが望ましいと判断し、判定区分Ⅱとした。

《判定区分》 Ⅰ：健全 Ⅱ：予防保全段階 Ⅲ：早期措置段階 Ⅳ：緊急措置段階

※点検要領：道路橋定期点検要領（平成31年3月国土交通省道路局国道・技術課）